



2050年ネット・ゼロの実現や生物多様性保全等に貢献する、企業等による森林づくり活動を顕彰(森林×ACTチャレンジ2025)



特集
アクト
森林×ACTチャレンジ2025

日本は国土の3分の2を森林が占める森の国であり、この森林を適切に整備・保全することは、森林による二酸化炭素吸収量の確保・強化につながり、2050年ネット・ゼロの実現に貢献するとともに、生物多様性保全といった森林のもつ公益的機能を発揮させる上でも大変重要な取組です。

また、企業活動の持続可能性に関する非財務情報開示が広がる中、企業等が支援等をして行う森林づくり活動が全国で広がっています。企業が気候変動対策や生物多様性保全の一環として森林整備に関わることは、豊かな自然を未来に守り伝える上で重要です。

このため、林野庁では、さらに多くの企業等に森林づくり活動へご参画いただくべく、企業等による森林づくり活動を顕彰する取組「森林×ACTチャレンジ」を実施しています。

今回の応募及び審査の状況

本顕彰制度は、2022年度より「森林×脱炭素チャレンジ」の名称でスタートし、2023年度には企業等による森林由来のJ-クレジットの活用について顕彰するJ-クレジット部門を創設したところです。また、2023年に「自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）」の提言が公表され、自然資本や生物多様性に関する情報開示の枠組みが示されたことを受け、2024年度より、生物多様性保全を新たな評価項目に加えるとともに、より幅広い視点で森林への関わりを推奨する観点から、名称を「森林×ACTチャレンジ」に変更しました。今回で4回目の開催となります。

今回の受賞者の取組の概要を紹介いたします。

森林×ACTチャレンジ2025 募集内容等

応募期間：令和7年4月21日～6月30日

応募総数：30件（森林づくり部門：26件、
J-クレジット部門：4件）

審査内容：整備した森林に係るCO²吸収量と
取組内容（森林づくり部門）
取得した森林由来J-クレジット量と
活用内容（J-クレジット部門）

応募対象：令和5年度及び令和6年度の間に森林整備
又は森林由来J-クレジットの活用を
行った法人、団体、個人、地方公共団体

受賞者の取組概要



内外装に多摩産材を活用した高尾山口駅の駅舎



裏高尾での植樹活動



京王電鉄株式会社



木材会館で開催された表彰式

(左)山本農林水産大臣政務官

(中)京王電鉄株式会社 取締役常務執行役員 中瀬 正春 氏

(右)京王電鉄株式会社 開発推進部部长 中嶋 良平 氏



社員研修



「京王水源の森」での集合写真

環境にやさしく、未来社会に 豊かな環境を引き継ぐ

京王グループでは、「環境にやさしく」という同グループの理念に基づき、都市と自然が身近にある京王線沿線の豊かな自然環境を維持するとともに、未来社会に豊かな環境を引き継ぐため、森林に関する様々な活動を行っています。

北海道に所有する約300haの社有林では、地元の森林組合と連携し、「伐って、使って、植えて、育てる」森林の循環利用に取り組んでいます。また、東京都水道局の「みんなでつくる水源の森」に賛同し、「東京水道（企業）の森」（ネーミングライツ）の協定を締結し、山梨県の水道水源の森の一部を「京王水源の森」として、社員による森林づくり活動を通じた多摩川上流域の森林保全に貢献しています。さらに、京王線で新宿駅から約1時間の「高尾山口駅」の駅舎や多摩動物公園駅前にある全天候型遊戯施設「京王あそびの森 HUG HUG」の遊具等に多摩地域から産出される多摩産材を活用するほか、2008年からは、「文化」「教育」「子育て」に関する学びを提供する「京王アカデミープログラム」の一環として、日本山岳会「高尾の森づくりの会」と共同で「高尾の森親子森林体験スクール」を実施しています。重要な社会インフラである鉄道の価値を基盤に、グループ理念に基づいた森林づくり活動を通じて、地域と企業が連携した森林資源の循環利用を着実に推進し、教育・観光・地域振興へと波及させた点が高く評価されました。

優秀賞

林野庁長官賞

協同組合 ウエル造林

確実な再造林の実施こそ福島 の森林再生への道

協同組合ウエル造林は、東日本大震災の影響を大きく受けた福島県の森林の復興と持続的な森林経営のための確実な再造林の実施に取り組むべく、2021年4月に設立されました。福島・茨城・栃木の3県の製材業者・林業事業者・素材生産業者が連携し、一貫作業システムの導入等による施業の効率化・低コスト化等を進め、森林の若返りや二酸化炭素吸収量の確保、伐採後の確実な再造林に広域的に取り組んでいます。営業や伐採、造林といった各部門が連携して3県にまたがる広域的な森林づくりに貢献するとともに、所有者の理解を得ながら確実な再造林を行いつつ、広葉樹等の保残などの生物多様性にも配慮している点が評価されました。



「福島の再造林推進を考えるシンポジウム」



大苗育成技術に関する実証試験

セガサミーホールディングス株式会社

企業力で未来の森を育む 環境保全と地域共生を目指す セガサミーの森

セガサミーグループは、グローバルに事業を展開する企業グループとして、持続可能な社会の実現に向けたサステナビリティ経営を推進しています。長野県の「森林の里親事業」に賛同し、長野県の南相木村と「森林の里親契約」を締結し、同村の民有林約3,633haを「セガサミーの森」と名付け、森林整備資金の提供をはじめ、社員による森林整備体験等を実施するほか、社員と南相木村の積極的な交流や、SNSを通じて双方の取組の発信など、南相木村に資金とヒトを送り込み、継続的な森林整備を行いつつ、地域活性化の好循環を生み出す、企業と森林が共生する一つの模範となる取組と評価されました。



「セガサミーの森」での集合写真



南相木村の森林

宮崎県延岡市／延岡西日本マラソン

スポーツの力で地域を元気に、森を未来へつなぐ

宮崎県延岡市は、地域の約85%を森林が占める自然豊かな地域であり、森林は古くから地域の暮らしや産業、文化の基盤として、地場産業の発展を支えてきた重要な要素となっています。延岡市では、九州三大マラソンの一つである「延岡西日本マラソン」において、森林由来「クレジット」を活用し、大会運営に伴うCO₂排出のカーボン・オフセットを実施するとともに、地元企業や森林所有者に対する「クレジット」への関心と認知度向上に取り組んでいます。特に「クレジット」の地産地消に注力しており、森林由来「クレジット」をカーボン・オフセットの手段にとどめず、地産地消することを通じて、地域の理解促進等に結びつけることを、自治体が主導している点が評価されました。



「延岡西日本マラソン大会」



クレジットを創出した延岡市の森林

表彰式の開催

11月4日、木材会館(江東区新木場)7階大ホールにおいて、「森林×ACTチャレンジ2025」の表彰式を開催しました。

当日は、受賞企業をはじめ多くの企業や団体の方々など、約180名にご参加いただきました。グランプリを受賞した京王電鉄株式会社には、山本農林水産大臣政務官から農林水産大臣賞が授与されました。

京王電鉄株式会社 取締役常務執行役員の中瀬様からは、「今回の受賞は、我々だけで成し遂げたものではない。ともに汗をかき、力を尽くしてくださった東京都水道局様、日本山岳会様、胆振西部森林組合様はじめ多くのパートナーの皆様へ、改めて感謝申し上げますとともに、この喜びを分かち合いたい。今後、さらに取組を強化し、地域とともに歩む企業として、豊かな自然を未来へつなぐ活動を続けていきたい。」とのコメントがありました。

「サザエさん一家の『もりのわ』話 吹き出しコンテスト」の表彰式および「第4回森林づくり全国推進会議」を合同開催

「サザエさん一家の『もりのわ』話 吹き出しコンテスト」は、令和5年度から長谷川町子美術館の協力を得て、林野庁が「みどりの感謝祭」の併催行事として開催しているもので、今年で3回目の開催です。表彰式の前に4名の受賞者と長谷川町子美術館館長川口様、および林野庁担当者との意

見交換を行い、応募のきっかけや作品制作時の発想、応募にあたって調べたこと等について伺いました。林野庁長官賞を受賞した縄さんからは、「以前から植樹イベントに参加していた。サザエさんのおうちよこちよいだけでなく一生懸命な性格からセリフを考えた。」等のコメントをいただき、同じく林野庁長官賞を受賞した竹林さんからは、「学校の授業の一環でコンテストに応募することになり、森林の多面的機能など授業で習ったことを活かして制作した。」等のコメントをいただきました。(受賞作品の紹介については、情報誌「林野」11月号に掲載)

また、当日は表彰式に続き、「第4回森林づくり全国推進会議(事務局:公社)



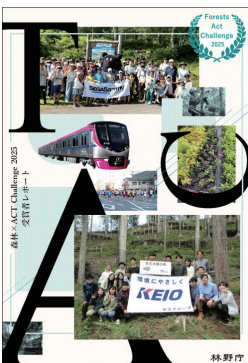
表彰式での記念撮影



パネルディスカッション

国土緑化推進機構)とシンポジウムが開催され、「企業と森林の共創によるWin・Winな未来へ」と題して、推進会議の会員企業である損害保険ジャパン(株)カルチャー変革推進部 サステナビリティ推進グループリーダー加藤様及び西日本旅客鉄道(株)DX本部 ビジネスデザイン部 JCLaaS事業部 課長後藤田様、「森林×ACTチャレンジ2025」グランプリ受賞者の京王電鉄(株)開発推進部 技術担当課長佐藤様、(公社)京都モデルフォレスト協会 常務理事兼事務局長仲間様によるパネルディスカッション(モデレーター:二社)日本農福連携協会 皆川芳嗣会長理事)が行われ、企業による森林づくり活動の位置づけ、活動のメリット等について活発な議論がなされました。

企業による森林づくりの取組を普及



受賞者の取組内容やその背景等を伝える“受賞者レポート”

「森林×ACTチャレンジ2025」受賞者による森林づくり活動の取組内容やその背景について、分かりやすく説明した「受賞者レポート」を林野庁ウェブサイトで公開しています。

「森林×ACTチャレンジ」の詳しい情報はこちら



「サザエさん一家の『もりのわ』話 吹き出しコンテスト」の詳しい情報はこちら



「森林づくり全国推進会議」の詳しい情報はこちら

